

編集 後記

本号も重要な論文が載っていますので是非お読みください。まず国民の健康と安全を守る公衆衛生活動保健の専門家、日本の保健師に必要とされる基本的コンピテンシー（専門能力）を測定する評価尺度の信頼性と妥当性を検討した結果がまとめられている。今後、現場で参考になりそうです。また資料として「大学敷地内禁煙」導入により、医学生喫煙率が実施前の36.0%から25.6%に下がり、喫煙に対する意識も向上したとの報告が掲載されています。我が国では、いまだ喫煙率は高く、2007年JT全国喫煙者率調査によれば一般市民は男40.2%、女12.7%に上ります。（男女合わせての比率で書く人がいますが、日本の男性喫煙率が突出している実態を覆い隠す数字で、日本の喫煙対策には役立たないように思えます）。一方、最近2008年EU諸国から食堂などを含めて家庭の中以外の施設は全面禁煙の法制度化が進み、効果として特に非喫煙者のpassive smokingによる汚染が劇的に減少しているとの報告がLancetなどにも相次いでいます。特に学童の尿中ニコチンレベルも法施行前とは有意に異なると報告されている。日本ではまだまだ喫煙対策が必要なのことがわかる。「民生委員からみた家庭内での高齢者虐待の現状」は公衆衛生の専門家と地域の民生委員の連携が重要であることを示し、今後の公衆衛

次号予告（第55巻・第10号）

原著

養育行動が4か月児の睡眠、母親の睡眠と健康に及ぼす影響の検討……………羽山順子, 他
 双生児の「こころ」の発達
 Twin language に対する介入の意義
 ……………林 知里, 他

資料

保健師によるソーシャルキャピタルの地区評価
 ……………埴淵知哉, 他

連載

運動・身体活動と公衆衛生(8)……………岡浩一郎
 わが国の結核対策の現状と課題(2)……………島尾忠男
 21世紀の地域保健(2)……………尾島俊之

生活動への示唆に富みます。最後にひとこと。最近、台湾に招かれ、シックハウス症候群の現状について3つの大学で講演をしてきました。日本の室内環境の研究に非常に関心をもっておられ、情報交換を希望されています。海外、特にアジア地域との公衆衛生活動や研究の交流に日本公衆衛生誌が役割をはたす役割が大きいと思います。生活の仕方、食べ物などの習慣も欧米よりはざっと近い親戚筋のような国々ですので。今後よろしくご検討をお願いしたいと思います。（岸 玲子）

『2007年版 インフルエンザの予防と対策』

米国疾病管理センター（CDC）予防接種諮問委員会（ACIP）勧告

インフルエンザ対策のガイドラインとして世界中で参考にされている、米国疾病管理センターの予防接種諮問委員会の勧告（2007年版）を翻訳したものです（2005年版、2006年版も既刊行）。

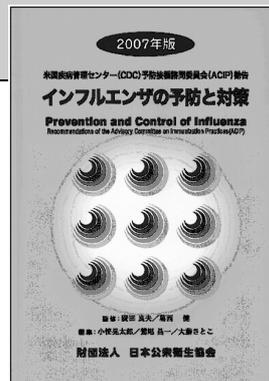
廣田良夫 葛西健 監修

B5判 123頁 定価 本体1,200円（税別）

ISBN978-4-8192-0201-5 平成20年1月31日発行

〈目次〉

- インフルエンザワクチンの有効性と安全性
- 2007/08シーズンにおける3価不活化ワクチンおよび弱毒生ワクチンの使用に関する勧告
- 特定集団の予防接種に関する追加情報 ○ワクチン接種の実施と接種計画に関する勧告
- インフルエンザワクチンに関する研究と勧告の将来方向 ○季節性インフルエンザワクチンと鳥インフルエンザ
- 季節性インフルエンザに対する抗ウイルス薬の使用に関する勧告
- インフルエンザおよびサーベイランスに関する情報源 ○ワクチン接種後に生じた有害事象の報告
- 抗ウイルス薬投与後に生じた重篤な有害事象の報告 ○特定集団におけるインフルエンザ感染対策の追加情報
- 参考文献



発行所 財団法人 日本公衆衛生協会

160-0022 東京都新宿区新宿1-29-8 TEL 03-3352-4281 FAX 03-3352-4605

HP <http://www.jpha.or.jp> e-mail info@jpha.or.jp